

令和元年度 第1回行財政改革推進協議会議事録

日 時：令和元年10月29日（火）午前10時00分～11時30分

場 所：役場2階会議室

出席委員：舩山、多田、竹田、齋藤、海老名

議事録

(1)第5次行財政改革大綱の進捗状況について

(資料により事務局説明)

委 員 観光協会の法人化についての状況はどうなっているか。

事務局 ヒアリングの段階では令和2年3月に法人化を予定しているが、なるべく早い時期での法人化に向けて、解散総会等の時期について検討している。

委 員 町から観光協会への派遣はしていくということになるか。

事務局 現在は正式な派遣という形ではない。法人化することで町からの職員派遣をすることができることになる。観光協会からは派遣の要望がきている。町と財団、地域おこし協力隊から職員を集めている状況で、観光協会の職員の育成と定着が必要なことから、給与等の待遇面も改善するよう検討している。

委 員 イベント関係では地区と観光協会とがうまく連携できるようにしてもらいたい。法人化がそのまま組織の健全化に向かうか分からないが、組織としての土台をしっかりと作っていただきたい。

事務局 宣伝力が弱いといった意見もいただいている。連携はしっかり取っていけるようにしなければならないし、現在の体制では職員の派遣が必要な状況であるため、今後の観光協会の人材・リーダー育成はしていかなければならない課題と考えている。

委 員 第5次大綱の進捗状況について、担当課で第6次大綱に盛り込まなくてもよいと捉えている項目が少ないのではないかと。継続して実施しなければならないものもあるかと思うが5年間の実施期間で、また5年間継続していくという項目が多いのはどう捉えているか。

事務局 はっきりと完了といえるものは、保育園や調理場の民営化であったりと目に見えるものになる。収納率の向上等は、100%になることが難しく、ずっと続けていかなければならない内容ではあるが、継続して大綱に加える必要があるのかという意見も出ている。事務局としては明確に大綱へ盛り込み、チェックしていくことが必要ではないかと考えている。明確に終了したといえる部分は終了とできるが、目標に届かなかった、やり方を変える必要があるといったものは継続としているため、数が多くなっている。

委 員 計画を策定した段階で、ある程度達成できるのかといった見通しは必要。民間委託が正しいのか、ほかのやり方があるのか等検討も必要である。

- 事務局 行動計画のなかで数値目標など具体的表記のできるものであれば、どの程度達成できたか把握することができるため、6次大綱では気を付けていきたい。
- 委員 収納率についてコンビニ収納の使われる方の属性は捉えているか。
- 事務局 男女比やどこのコンビニで多いか等の状況把握はできていない。
- 委員 保育園料金や水道料金のほかでも滞納している方の収納は、行政からの支援が必要でないか。個人への会計指導、金融教育等の支援等の方法があるのではないか。
- 事務局 本町ではまだそこまで対応できていない。各担当課で情報共有はしているが、所得の状況の把握や指導等はできていない。そのための専門的な人材も必要になるため今後検討をしてきたい。
- 委員 町営住宅の老朽化が進んでいるが、空き家の利活用や町営住宅の必要性はどのように捉えているか。
- 事務局 住宅整備基本構想でこれからの町営住宅の在り方を検討している。神明アパートは古くて階層が高く、建て直しという方向になるか検討している。料金的に安い町営住宅は引き続き必要であると考えている。空き家については一戸建てでは管理が大変であったり、古くてリフォームが必要であったりとマッチングが大変な状況である。冬期間に入れるアパートが必要との意見もでており、今後検討していく。
- 委員 紅花とシラタカレッドについて、紅花だけでなくトマトやリンゴなど様々な赤に広げてもらいたい。白鷹町は酪農も盛んなことから牛乳やチーズなど赤だけでなくホワイト等の色で組み合わせピザを作ったりといった幅広い取組みが必要でないか。
- 事務局 ご指摘のとおり様々な取り組みが必要と考えている。白鷹町の農業の特色としては少量多品目のため、6次産業化にしても人手や設備の面で課題がある。どのような支援ができるか考えていかなければならない。
- 委員 白鷹町の職員数は他の類似団体と比べて多いほうか。
- 事務局 同じ就労構造、人口の団体規模でいうと少ない方である。(平成30年では、類似団体(普通会計、人口1万人あたりの職員数)53団体中13番目に少ない。)
- 委員 病院の経営についてはどのような状況か。
- 事務局 赤字の状況が続いている。へき地医療として不採算部門があり町としての持ち出し分があるのは仕方ない状況である。健康診断から病院利用へと繋げていきたいが、人口減少や福祉施設の充実等で入院者が少なくなっている状況である。
- 委員 パレス松風の宿泊施設について稼働率が悪いように感じている。温泉施設に特化したような施設利用等の利活用を検討していくことも必要でないか。
- 委員 パレス松風は町にとっての必要な施設のひとつと感じている。町立病院と同じく財政的な面ではネックになっているかもしれないが、役割としては町には必要である。これからの活用については課題になっている。
- 委員 住みよいまちづくりが根幹には必要であると思う。施設の利活用については財政面だけでなく、住民の理解や町としての方向性から学校や病院といったものは住みよいま

ちづくりには不可欠でないかと思われる。総合的に考えてなんとか維持できるように考えていかなければならない時期になっている。

委員 観光地は歴史が必要である面もあるため、紅花にしてみると県内では山形の高瀬地区などよりも弱くなってしまう。そのようなときに観光に力を入れるとなるとマンパワーが必要である。法人化にしていくといってもやはり観光協会の人材育成や改革がこれから進めていっていただきたい。

(2)第6次行財政改革大綱の策定について

(資料により事務局説明)

委員 進め方についてはこのようなスケジュールでいいと思う。人事評価制度については評価者により評価が変わるといったことが懸念されるが、うまく活用いただいて職員の能力が適切に反映されるようにしていただきたい。

事務局 平成 28 年から人事評価を実施しているが処遇への反映はしていない。評価する側が同じ目線で評価ができるように重点的に研修をしている。適正な評価・待遇にできるように進めていきたい。すぐに昇給昇格への反映はハードルが高いが、まず勤勉手当に反映し人事評価の熟度を高めていきたいと考えている。

委員 後ろ向きの考えにはなるが、この水準まで下がらないようにといったことも想定しているか。公共施設の継続的な維持管理について、学校や病院など地区として何としても残していかなければならない施設と、維持できなくなった場合を想定していかなければならない。人口減少幅も想定よりも大きいため学校の統合等、人口に左右される施設については直前に切り離すというよりも将来を見越して学校の数、病院の病床等を決めていくということは考えているか。

事務局 第6次総合計画では人口減少をなるべく抑えるように計画を立てている。統合については複式学級が何年か続いたら等の基準は設けているようだが地区や地理的なものも見越して検討していかなければならない。

委員 今は元気な高齢者が多くいるため人口も支えられている。団塊の世代などが抜けた後に人口減少がさらに急速に進んでいくと思われる。そうしたときに町の規模としても縮小しなければならないし、コンパクトシティのまちづくりが必要となるのではないか。

委員 学校や病院といった施設も人口の減少に合った規模の施設にしていいただきたい。

事務局 県全体としても人口が減少傾向にある。第6次大綱でも人口減少社会を前提としたなかで行政サービスが維持していけるような内容としていきたい。

閉 会